

## ■画像診断室

### 1. 2017 年度 目標及び方針

- 1) 時間内業務の平坦化
- 2) 待ち時間（予約枠外）に対する説明対応の実施
- 3) PDCA サイクルを明確にした一般撮影再撮影率低減と技術向上（QI）
- 4) 2 点確認遵守による患者誤認インシデントの低減
- 5) 画像 ICT による 3 ヶ月毎のラウンド実施による画像診断室の感染管理
- 6) STAT 報告件数の増加、JCI・ISO の継続認証に向けた取り組み
- 7) 院内研修（必須研修）・部署内研修参加率の増加

### 2. 2016 年度 評価

結果：代表的な業務目標とその振り返りについて以下に揭示

1) 財務の視点では『定期的な節電の実施と見回りの実施』で夜間見回りと揭示を計 21 回実施。目標の 24 回には至らなかったが継続的な実施が出来ていたため啓蒙活動には繋がったと考えられる（達成度：87.5%）。達成出来なかった項目は①『事務用品の見直しと在庫定数の見直し』（達成度：50%）、②『MRI 件数増加』（同：-35%）、③『時間外削減』（同：0.022%）。②に関しては退職者が増えた事により検査枠を減らさざるを得なかった事が影響している。2) 顧客の視点では目標達成した項目として『MRI 対応ペースメーカー検査担当技師の増員』で達成度は 111.5%。『有給休暇取得』では同 91.2%。達成出来なかった項目は『接遇に関する「部署内勉強会開催」と、「振り返り評価の実施」』で同 50%。要因は勉強会に活用する資料の選定に手間を取り初動が遅れた為と思われる。3) 内部プロセスの視点では『PDCA サイクルを明確にした一般撮影再撮影率低減と技術向上』、『部内災害対策体制の強化と訓練の実施』、『画像診断室業務手順書の大幅な見直しと改訂』の 3 項目で達成。概ね達成の項目は『2 点確認遵守による患者誤認インシデントの低減』で 2015 年度患者誤認は 9 件、今年度は 7 件（9 月以降は 2 件）と減少傾向となった。達成出来なかった項目は『画像 ICT による 3 ヶ月毎のラウンド（手指衛生モニタリング）実施による画像診断室の感染管理』で 66.14%であったが、画像 ICT の活動を通して画像診断室全体に感染管理の土壌が醸成されつつある事は評価に値すると思われる。4) 学習と成長の視点では『認定資格取得に向けた教育・指導と支援』で目標 3 名に対し 5 名が認定資格を取得し目標を上回った（達成度：167%）。達成した項目は『各学会・研究会年間スケジュールの把握と揭示』で年度内開催分の学会・研究会で計 63 件のスケジュール登録が実施された。達成出来なかった項目は①『画像内勉強会参加率の増加』（同：68%）②『必須研修参加率の増加』（同：49.1%）の 2 項目。①は欠席理由の報告がない場合が多かった事が要因として大きいと思われる。②は業務の都合で当日参加出来ない場合もあるが、DVD 上映の機会を個々が活用し切れていない事が一番の要因として考えられる。

### 3. スタッフ数

- ・診療放射線技師 52 名
- ・臨床検査技師（MRI 専門）1 名
- ・看護師（MRI 専門）1 名
- ・医学物理士 1 名
- ・受付事務 12 名
- ・画像看護師 10 名
- ・看護補助 2 名

### 4. 年間活動内容と実績

（業績集表 1）

月別検査状況

単位：件

月別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
一般撮影	胸部	5268	5721	5670	5952	5859	5891	6040	5949	5826	5647	5615	5877	69315	5776.3
	一般	3953	4296	4651	4213	4384	4194	4164	4193	4263	4085	4146	4649	51191	4265.9
	乳腺	573	569	1089	1082	926	1060	1000	1147	1014	878	622	697	10657	888.1
	骨密度測定	218	278	293	303	341	331	313	287	279	289	357	370	3659	304.9
	ポータブル	1821	1758	1852	1863	1817	1750	1763	1982	2008	2027	1769	1839	22249	1854.1
一般造影	上部消化管	115	180	230	219	215	206	241	226	219	134	163	120	2268	189.0
	注腸	1	5	8	2	2	4	9	3	2	2	1	1	18	1.8
	DIP・UG	4	5	8	4	7	1	9	7	2	3	6	7	63	5.3
	ERCP	61	62	65	65	65	47	68	63	63	62	59	68	748	62.3
	PTCD	1	2	5	3	3	3	4	3	1	2	3	1	31	2.6
その他	149	140	197	185	132	162	192	170	154	154	154	179	1948	162.3	
血管撮影	頭部	13	19	7	15	9	10	13	9	9	11	13	12	140	11.7
	腹部	13	11	20	17	9	20	11	13	26	18	22	28	208	17.3
	心カテ	140	159	155	143	162	157	145	135	150	172	151	152	1821	151.8
	その他	11	6	12	13	10	11	20	11	8	10	11	17	140	11.7
	ハイブリッド	8	6	11	10	9	10	4	8	10	5	8	9	98	8.2
CT	3617	3743	3776	3671	3858	3608	3753	3740	3846	3696	3543	3884	44735	3727.9	
MR	1629	1548	1742	1644	1626	1473	1576	1520	1490	1480	1533	1591	18852	1571.0	
合計	17595	18503	19783	19404	19434	18938	19316	19466	19370	18655	18176	19501	228141	35098.6	

月別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
RI検査数		119	137	155	114	135	122	118	118	131	143	150	140	1582	131.8
PET検査数		306	315	318	301	309	318	309	297	280	285	300	366	3704	308.7

月別		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
治療患者数		1258	1020	1157	1415	1377	1212	1324	1124	977	997	1103	1127	14081	1173.4
IMRT患者数		295	236	296	356	384	213	273	205	119	187	209	211	2984	248.7

【特殊治療患者数】 体幹部定位照射…37人 全身照射…7人 RALS…23人

## 5. 教育・勉強会関係

### 1) 画像診断室主催勉強会

- 4月 新人教育（技師）
- 5月 STAT 報告（技師）、健診大腸 CT（他科医師）
- 6月 QI「ポータブル撮影と股関節撮影」（技師）
- 7月 ファントルくんの運用について（技師）、STAT（技師）
- 8月 ICT 活動報告会（技師）、QI「救急外傷頸椎撮影」（技師）PET について（放射線科医師）
- 10月 MRI 室用パルスオキシメータ新規説明会（業者）、ISO（技師）、STAT 報告（技師）、接遇（技師）、放射線皮膚炎とケア（放射線科医師）、神経感染症の画像診断（放射線科医師）、QI「バックボード撮影（胸部・骨盤）」（技師）
- 11月 装置説明（業者）、ちょっとうふふな所見（放射線科医師）、STAT 報告（技師）
- 12月 ICT（技師）、QI「救急外傷頸椎撮影 Part. 2」（技師）
- 1月 STAT 報告（技師）、甲状腺眼症の診断と治療（放射線科医師）
- 3月 QI まとめ（技師）、STAT（技師）

### 2) 2016 年度導入機器

- 2017 年 3 月 救急一般撮影装置 1 台（病院救急）『UD150L-40』（島津製作所）  
回診用 X 線撮影装置 1 台（病院救急）『CALNEO GO』（富士フイルムメディカル）

## 6. 学術関係

### 1) 学会・研究発表

発表者名：加藤 義明

演題名：マルチモダリティから乳がんに向ける～画像所見は病理像を反映しているか～MRI

発表学会名：第 72 回日本放射線技術学会総会学術大会

開催月日：2016 年 04 月 14 日～2016 年 04 月 17 日

発表者名：相京佐和子

演題名：適切な人事考課の為のコーチングツールの作成

発表学会名：第 18 回日本医療マネジメント学会

開催月日：2016 年 04 月 22 日より 2016 年 04 月 23 日

発表者名：田島 太一

演題名：大腸 3DCT による任意型大腸がん検診の経験

発表学会名：第 55 回日本消化器がん検診学会総会

開催月日：2016 年 06 月 10 日より 2016 年 06 月 11 日

発表者名：菊込 有加

演題名：Cases of Kameda Medical Center

当院で施行した 80kV High resolution cone-beam CT について

発表学会名：インターベンショナルツールユーザーズミーティング 2016

開催月日：2016 年 06 月 25 日

発表者名：池谷 尚人

演題名：当院の脳血管撮影・脳血管内治療患者の被曝低減の工夫と被曝管理

発表学会名：第 13 回 NPO 法人 日本脳神経血管内治療学会関東地方会学術集会

開催月日：2016 年 7 月 9 日

発表者名：苅込 有加

演題名：2 種類の高分解能 XperCT (80kVXperCT&VasoCT) の臨床応用と工夫

発表学会名：X-ray 先端医療&技術講演会 2016

開催月日：2016 年 09 月 17 日

発表者名：小野 雄一郎

演題名：当院の QI 活動における一般撮影の再撮影率低減の取り組みと成果

発表学会名：第 44 回 日本放射線技術学会秋季学術大会

開催月日：2016 年 10 月 13 日より 2016 年 10 月 15 日

発表者名：池谷 尚人

演題名：脳動脈瘤コイル塞栓術後高解像度 Cone beam CT 撮像方法ならびに画像再構成の検討

発表学会名：第 32 回 NPO 法人 日本脳神経血管内治療学会学術総会

開催月日：2016 年 11 月 24 日より 2016 年 11 月 26 日

発表者名：苅込 有加

演題名：Excel ソフトによる造影剤注入パラメータの最適化と効率化

発表学会名：第 32 回 NPO 法人日本脳神経血管内治療学会学術総会

開催月日：2016 年 11 月 24 日より 2016 年 11 月 26 日

発表者名：小野 雄一郎

演題名：特定の部位に対する教育体制が一般撮影の再撮影率定価に与えた影響

発表学会名：日本放射線技術学会 第 63 回関東支部研究発表大会

開催月日：2017 年 1 月 28 日より 2017 年 1 月 29 日

## 2) 講演、その他

発表者名：相京佐和子

演題名：現場で使えるコーチング技術

発表学会名：南関東 FRT 第 2 回研修会

開催月日：2016 年 08 月 21 日

発表者名：加藤 義明

演題名：硬癌を徹底解説 ～各モダリティから見てみよう～ 硬癌の MRI

発表学会名：日本放射線技術学会 第 212 回東京支部技術フォーラム

開催月日：2016 年 09 月 11 日

発表者名：石川 和弥

演題名：「他院からの画像の取り込み・保存」における 問題点と注意点について

発表学会名：第 14 回千葉県放射線技術フォーラム (CRTF)

開催月日：2016 年 11 月 20 日

発表者名：小野 雄一郎

演題名：一般撮影の WAZA

発表学会名：第 70 回千葉撮影技術研究会

開催月日：2017 年 1 月 7 日

発表者名：発表者名：加藤 義明

演題名：「失敗しないMRIルーチン検査のために押さえておきたい5つのこと」  
～頭部領域～

発表学会名：日本放射線技術学会 第63回関東支部研究発表大会

開催月日：2017年01月28日～2017年01月29日

発表者名：小野 雄一郎

演題名：ポジショニング位置と画質の関係～回転速度とView数にも触れてみて～

発表学会名：首都圏東芝CTユーザーミーティング in 千葉 1st

開催月日：2017年2月25日

発表者名：小野 雄一郎

演題名：TAVI ビデオレクチャー

発表学会名：千葉県診療放射線技師会上総支部

開催月日：2017年3月11日

文責：矢野 昌男・加藤 光久